

『スマート通勤おかやま2010』実施結果(7月26日～30日実施)

1. 参加状況及び CO2・通勤時消費エネルギー・ガソリンの削減量と削減率

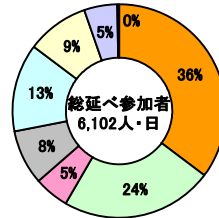
●全体の参加状況

参加企業数	152事業所
参加登録者数	2409人

152事業所、2,409人の方が「スマート通勤おかやま2010」の取り組みに参加されました。

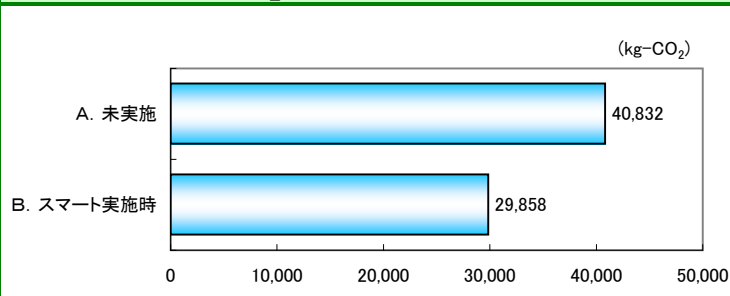
(昨年は140事業所、2,399人の方の参加でした。)

●変容交通手段の状況



自動車からの変容手段として、自転車への転換が約36%を占める。

●全体の期間中の「CO₂」削減量と削減率

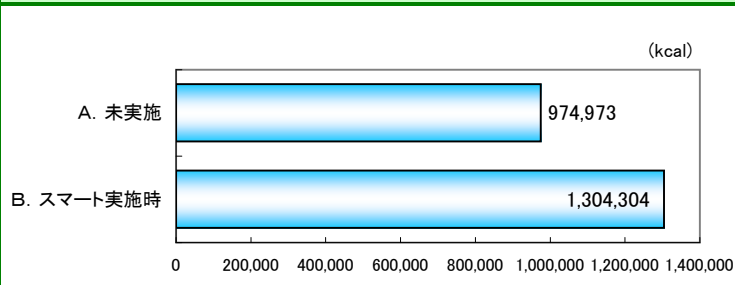


C.削減量 (A-B)	10,974 kg-CO ₂
D.削減率 (C/A)	26.9 %

約11.0t-CO₂は、約784本のスギの木が1年間に吸収するCO₂量に相当するものです。

※スギの木は、樹齢50年程度のものを想定。スギの木が1年間に約14kg(地球温暖化のための緑の吸収源対策:環境省林野庁)のCO₂を吸収するとして試算。

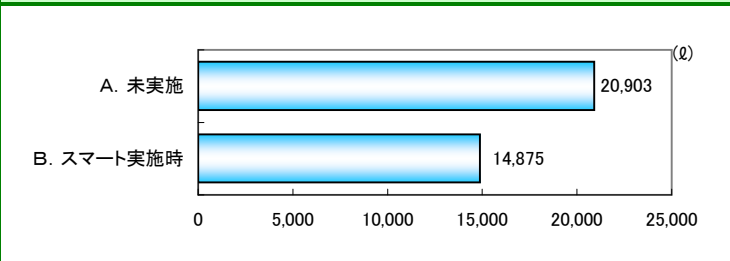
●全体の期間中の「通勤時消費エネルギー」増加量と増加率



C.増加量 (B-A)	329,331 kcal
D.増加率(C/A)	33.8 %

一人当たり平均増加量約137kcalは、ジョギングを約18分間実施した場合の消費エネルギーに相当するものです。

●全体の期間中の「ガソリン」削減量と削減率



C.削減量 (A-B)	6,027 l
D.削減率 (C/A)	28.8 %

(1人当たり約2.5ℓ)

備考) 「A. 未実施」は、参加者のみなさんが通勤時に全てマイカーを利用した場合の数値です。

CO₂排出量: 「平成14年度国土交通省白書」、「平成17年度全国道路交通センサス 一般交通量調査」(国土交通省)

エネルギー消費: 第6次改定日本人の栄養所要量(厚生労働省)

(※エネルギー消費は、年齢42.5歳(岡山県平均)、体重を男性65kg、女性を55kgとして平均して計算しています)

燃料消費量: 「メーカー公表車種別燃料消費率」、「平成17年度全国道路交通センサス 一般交通量調査」(国土交通省)

2. 参加事業所の状況

●参加者数		
第1位	岡山市	213人
第2位	倉敷記念病院	196人
第3位	岡山ガス株式会社	188人
第4位	麒麟ビール株式会社 岡山工場	156人
第5位	玉島信用金庫	150人

●CO2排出削減量		
第1位	岡山市	約1.31t
第2位	岡山ガス株式会社	約0.86t
第3位	倉敷記念病院	約0.51t
第4位	麒麟ビール株式会社 岡山工場	約0.39t
第5位	玉島信用金庫	約0.36t

●エネルギー消費増加量		
第1位	岡山市	約3.9万kcal
第2位	麒麟ビール株式会社 岡山工場	約2.3万kcal
第3位	岡山ガス株式会社	約2.2万kcal
第4位	倉敷記念病院	約1.1万kcal
第5位	広成建設株式会社 岡山支店	約1.0万kcal

●ガソリン消費削減量		
第1位	岡山市	約677リットル
第2位	岡山ガス株式会社	約482リットル
第3位	倉敷記念病院	約274リットル
第4位	麒麟ビール株式会社 岡山工場	約210リットル
第5位	玉島信用金庫	約201リットル

●一人当りCO2排出削減量		
第1位	安藤建設株式会社 岡山営業所	約59.9kg
第2位	岡山リサーチパークインキュベーションセンター	約32.4kg
第3位	株式会社島瀬設計事務所	約26.2kg
第4位	株式会社NTTドコモ 中国支社 岡山支店	約25.6kg
第5位	有限会社カシマ興産	約20.3kg

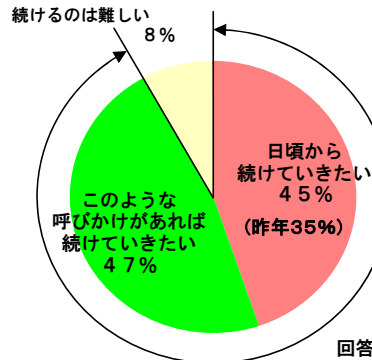
●日数別参加割合	
1日間参加	35.0%
2日間参加	15.9%
3日間参加	12.1%
4日間参加	11.7%
5日間参加	25.3%

3. 参加者の取り組みの声

【本取り組みに参加された方の声】

- 取り組みに参加してよかったこと
 - ・CO2削減は何らかのきっかけが必要で、今回、参加できてよかった。
 - ・徒歩通勤することですいつも通り過ぎる景色や季節を感じながら歩くことが出来、気分的にもリフレッシュできてよかった。
 - ・環境のほか、健康にもつながる活動であることを再確認できた。
 - ・個人個人の考え方が変わったので、環境に対する取り組みが、他の面でも影響をおよぼすようになりました。(例、ゴミの分別・リサイクル等)
 - ・小さな企業でも、地域で一丸となることで微力でも社会貢献できているかと思うと良かったと思いました。
 - ・ホームページを見て、紹介されている事業所が想像以上に真摯に計画的に取り組んでおられることに改めて驚きました。
 - ・1日でもスマート通勤ができるように、取り組みを続けたい。
- スマート通勤を続ける上での改善・課題
 - ・公共交通の利便性の向上が必要である。
 - ・自転車通勤をしてみて、道路のアスファルトの上塗りや段差、溝の凸凹など 走りにくい箇所があった。
 - ・季節的にも涼しい時期が参加しやすい、自転車通勤者・徒歩や公共交通利用に関しても期間中が夏場ですと参加が1日間とただけになりやすいので、気候が良ければ5日間通して参加する人がもっと増えるんじゃないかと思っています。
 - ・取り組みをはじめ(続ける)にあたって、やはり季節の良い時期がはじめ(続け)やすい様に思います。

■今後も「スマート通勤」を続けていきたいと思いませんか？



・9割以上の事業所が、今後もスマート通勤を続けたいと回答。
 ・日頃から続けていきたいが昨年より10%増加。

【電動アシスト付き自転車の事業所の貸出】

- 電動アシスト付き自転車を貸し出して試みる事業所の声
 - ・通勤経路は、坂道が多く自転車や徒歩では通勤できないので、クルマで通勤していた方が、「スマート通勤おかやま2010」終了後、電動アシスト付き自転車を購入し自転車通勤に転換した。
 - ・従業員が通勤や日中の移動手段として活用した結果、好評であったため、電動アシスト付き自転車の購入を検討している事業所もある。
 - ・通勤距離が10km以上もありスマート通勤は難しいと思っていたが、電動アシスト付き自転車を貸し出したことから、スマート通勤のきっかけとなった方もいた。
 - ・実際に電動アシスト付き自転車で通勤してみて、今後もスマート通勤ができそうだという意見があった。
 - ・現在、営業の多くがバイクであるが、今後は電動アシスト付き自転車に切り替えることを社内で検討すること考えている事業所もあった。